

MEGA LOVE

無限の半ば

1. 歩き出すまで
2. 永遠が届かない
3. 僕の罪
4. 白い世界
5. 無限の半ば
6. あなたが恋しい
7. 鞆
8. 濡れているよ
9. カーテン
10. サヨナラはもういらない

●歩き出すまで

作詞 曲 大角太郎

ざらついた心模様 季節を失くした襟に
25時の溜め息は 雑踏に溶けてゆく
眠ってしまえるのなら 少しは楽になれる
足りない物の隙間は どうして埋めればいいのか

あなたの事忘れようとしても毎日流れて
ただわがままに心を求めて
あなたの全てを失くしてしまったの

何度もあなたを抱きしめた 拭えない痛み感じ乍ら
あなたの肩越しに降った星を数えて
何度もあなたを抱きしめた 何度も近くで確かめた
どれだけ抱いても遠く感じる 愛が揺れてた

願えば願う程に 離れる物があると
想いもしなかつたよ 考えもしなかつたよ

この痛みが消えた時 あなたを忘れる事が出来る
高まり止まぬ想いだけが
あなたと繋がる最後の証なの

もっと哀しみに触れていよう 弱さもズルさも切なさも
少しビツな現実 全て抱えて
哀しみさえ愛してゆく 変わらない風に乗れや乍ら
何時か綺麗に結ばれるまで 歩き出すまで

何度もあなたを抱きしめた 何度も近くで確かめた
どれだけ抱いても遠く感じる 愛が揺れてた

●永遠が届かない

作詞 曲 大角太郎

例えば見つめ合って何処までも強くなる
不安や迷いなんて知らまい見えない
あなたを失う事 想いもしなかつたけど
硝子みたいな心 壊れて消えたよ

取り戻せない時の流れに揺られて
痛みの河を渡るよ

あんなに傍に居た君の永遠が届かない
信じられない信じない こんな事

繋いだ指先から悲しみがこぼれていた
あなたが伝えようとした事を考えてる
夢の育て方もあなたを愛することも
若過ぎて何だか全て 恋しいと思った

取り戻せない笑顔探し続けて
痛みの雨に濡れるよ

あなたの声が聞こえてる 離れてもこの胸に
ずっと流れる 流れてる 何時までも

取り戻せない時の流れに揺られて
痛みの河を渡るよ

あんなに傍に居た君の永遠が届かない
信じられない信じない こんな事
あなたの声が聞こえてる 離れてもこの胸に
ずっと流れる 流れてる 何時までも

●僕の罪

作詞 曲 大角太郎

夢の中の様に何時までも 側に居られなかった
慣れた様に愛しさは 傷つけ合う度に
二人の前で現れてくれなかつたけど

愛が重荷になってあなたの心 疲れさせていたなんて
考えた事無い僕の罪だ あなたの全てを
求める事はあなたをまるで 愛さないと同じ

だけあなたの声がきこえて来そうで 街角で独り立ち尽くしている
あなたの匂いに何時も包まれて 眠った事を思い出して
立ち止まる僕に街中の日常が ただ通り過ぎてくだけ

疲れ果てた記憶 そして曖昧な面影をなぞりながら
君を思い出して奮き込むのは 正しくない
かなり鈍くなった心が あなたの探してる

今もあなたの声が聞こえて来そうで 街角で独り立ち尽くして
あなたの匂いに何時も包まれて 眠った事を思い出して
立ち止まる僕に街中の日常が ただ通り過ぎてくだけ

何処に行けばいい 放り出されて充てのない恋の抜け殻は
痛み隠して笑える様な 中途半端な強さなくて要らない

だけあなたの声がきこえて来そうで 街角で独り立ち尽くしている
あなたの匂いに何時も包まれて 眠った事を思い出して
立ち止まる僕に街中の日常が ただ通り過ぎてくだけ

●白い世界

作詞 野口ジュン 作曲 大角太郎

真夜中過ぎのあのバスに乗る久しぶりの君を待つ
星の破片は街路樹に咲く冬の街角がずイルミネーション

僕の吐く息は今夜空に吸い込まれ
12月の夜を白く塗り変えてゆくよ

きつと会える 空に願う 君を誘う白い世界

「また会えるよ」と言葉で写した瞳に決て予感ではなかつた
ひとひらつちの待合室で 別世界の冬を眺めて

僕の吐く息はまた夜空に逃げてゆく
まだ来ない君の行方どうしよう

見上げた空 降りだす雪 君と会えた白い世界
言葉に出来ればきつともっと近くにいれた？
壊れそうな永遠にただ震えているよ

僕の吐く息は今夜空に吸い込まれ
12月の夜を白く塗り変えてゆくよ

きつと会える 空に願う 君を誘う白い世界
見上げた空 降りだす雪 君と会えた白い世界へ

離さないようにきつともっと抱きしめてたら・・・
会いたくない想いは募るけど君は来ない
張り裂ける心締めつける最後のアナウンス
降り続く雪は君の姿消してゆく

●無限の半ば

作詞 曲 大角太郎

風の言葉に 何処までも身を委ねて
こんな気持ちに ずっと包まれたいよ
星降る夜には悲しみ忘れて 永遠の刹那描こう

夢の続きが 色褪せてしまうなんて
悪い予感も どうぞ投げ掛けないで
振り返る程に歩いてないけど 何日目覚めても

何処までも君を想うから 何処までも強くなる
昨日まで受けた痛みさえ 風に入れてく
何処にいても君が聞こえて来るよ

雲の切れ間に 約束なんか預けて
罪も無いよな 笑顔だけあればいい
光の朝には言葉じゃなくても 解かり合えるから

何時までも君を想うから 何時までも強くなる
昨日まで受けた痛みさえ 風に入れてく
君を想う無限の半ばで逢おう

不安がよぎる 孤独にさせる
出逢いを悔やむ 心が狂れる
全ての悲しみ 育てないように

何処までも君を想うから 何処までも強くなる
昨日まで受けた痛みさえ 風が流してくれるから
君を想う無限の半ばで逢おう

●あなたが恋しい

作詞 曲 大角太郎

あなたを想えば見えない勇気に包まれて気づかぬまま
唐心地の良さが不安に化けた信じられない痛みつめて

あなたの肌の温もりも全てを許すよな瞳も
哀しい位鮮やかに僕の中に居るのに

離れて行く程 あなたを欲するが
忘れてしまえぬ あなたの心を彷徨う
時計はあの時のまま君を指しているよ
どうすれば君に逢える

目には映らない互いの心求め過ぎて傷付け合った
あなたがつく嘘も少しばかりのわがままさえ今じゃ愛しい

あの頃あなたのあの部屋の色使いも覚えてるよ
哀しい位鮮やかに僕の中に居るのに
離れて行く程 あなたが恋しい
あなたの思い出 昔になりはれない
時は残酷な絵を僕に見せてくれるよ
どうすれば歩き出せる

繰り返してる学ぶ事無ん大事なもの気づかず

一番大事なあなたが消えてく
一番大事なあなたが見えなくなる

離れて行く程 あなたが恋しい
忘れてしまえぬ あなたの心を彷徨う
時計はあの時のまま君を指しているよ
どうすれば君に逢える
どうすれば歩き出せる

●鞆

作詞 曲 大角太郎

ほんのわずかな甘い憂鬱を支え切れなくなって
二人は何時か離れてしまったけど
どうしているかも分からない今じゃあの娘とまで綺麗になつたよ
何処かで誰かに聞いた事がある

時は流れてくだけ 悲しみに日々向かい合わせ
熱く辛い想いを 胸に抱き込んできた

溜め息の行方はきつと君が届かないし
新しい暮らしにもそろそろ疲れていたんだよ
嗚呼 また君に逢えてよかった また君に逢えてよかった

或いは君と出会った頃を歩き直せるなんて
夢見るほど弱くもなれないけれど
約束が二人を締め付けたあんな悲しみはもう二度と
作らないと何度も君は僕に話す

道は何時も見えない 二人の職があるだけ
何時か辿った悲恋は 少し素直じゃなかっただけ

溜め息の行方はきつと君が届かないし
新しい暮らしにもそろそろ疲れていたんだよ
嗚呼 また君に逢えて良かった また君に逢えて良かった

●濡れているよ

作詞 曲 大角太郎

早く止めばいいと 願う日もあるけど
憂鬱な午後雨も 悪くもない気がする
改札抜けた所で 幸せな風が舞ってる
不安に包まれてた 夜を壊して欲しい

言葉にすれば何時も何故か全て嘘に変わる気がした
逢うものに形を変えないでね この心

過去も未来もなく君に逢いたい
曇りのち雨の中で濡れているよ

揺れる想い達を 流してしまえばいい
曖昧を重ね着した 心を流せばいい

ざわめく夜の色使いが君の声を掻き消すけれど
逢うものに形を変えないでね この心

残酷な夢のように抱いて居たよ
目覚めてもここで二人濡れているよ

ずっと一緒だったらしいのにね残り時間のやるせなさよ
毎日日は重くのし掛かる二人は距離ばかり気になる
何で時はこんなに速く逝くの 何時だって

雨は止まないままでよきながら近い
でもねこのままで二人濡れていようよ
過去も未来もなく君に逢いたい
曇りのち雨の中で濡れているよ

●カーテン

作詞 曲 大角太郎

地下鉄は1日分の疲れを乗せて
明日へと溜息運連れに
僕は階段をひとつ登る度
誰かに肩をたたくれそうな気がしてる
空にカーテンが掛かるころ
僕は昔の事ばかり何度も振り返る

こんな夜は必ず 君の事思い出している
時が削り続けてく記憶の突きあたりから
けどどうも君は思い出の形を以て
色褪せた写真の中で悲しく笑うだけ

今もこんな風に思っているよ
君の中に僕の居場所があるか
君の言葉ひとつに助けられていたよ
思い出知ったのはもうずっと前の事
辛い事まく隠して笑ってみせないで
迷った時も君は君のまま心聴かせて

こんな夜は必ず君の事思い出している
時が閉ざそうとしている記憶のカーテン越しに
けどどうも君は思い出の形を以て
色褪せた写真の中で悲しく笑うだけ

●サヨナラはもういらない

作詞 曲 大角太郎

まだ明けぬ悲しみの夜が君の心冷やしてゆく
二人が余りに遠くて
降り出した雪の中で白い息をいくつも吐いて
僕は天を仰いだ

繰り返してきた過ちの数を数えてみる
君がまた不安の波にさらわれぬ様に

降り積もる雪のように二人の今二人の明日
優しく重ねよう

サヨナラはもういらない
サヨナラはもういらない